

目次

1	開会の挨拶	3
	矢内 真理子 東京都福祉保健局技監	
2	献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式	4
	東京都知事感謝状贈呈式	
3	献血セミナー	5
	～献血の現状と課題～	
	延島 俊明 東京都赤十字血液センター	
4	基調講演	11
	大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドラインについて	
	座長 小山 信彌 東邦大学 医学部	
	講師 香取 信之 東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座	
5	輸血療法Q&A	30
	座長 奥山 美樹 東京都立駒込病院 輸血・細胞治療科	
	座長 奥田 誠 東邦大学医療センター大森病院 輸血部	
	(1) CAR-T 治療の保険収載 ～輸血業務への影響について～	30
	講師 田野崎 隆二 慶応義塾大学医学部 輸血・細胞療法センター	
	(2) 医療法改正のポイント（精度管理）	39
	講師 名倉 豊 東京大学医学部附属病院 輸血部	
6	輸血療法シンポジウム	49
	テーマ：在宅における輸血療法の現状と課題	
	座長 石丸 文彦 東京都赤十字血液センター	
	座長 牧野 茂義 虎の門病院 輸血部	
	オーバービュー	49
	藤田 浩 東京都立墨東病院 輸血科	
	(1) 都内の在宅輸血の現状	54
	田中 朝志 東京医科大学八王子医療センター 輸血部	
	(2) 輸血検査における課題	64
	奥田 誠 東邦大学医療センター大森病院 輸血部	
	(3) 在宅輸血の取組の実際	75
	大橋 晃太 トータス往診クリニック	
	(4) 看護師の立場から	84
	大熊 佳世子 クレア訪問看護ステーション	
7	閉会の挨拶	91
	藤田 浩 東京都輸血療法研究会世話人代表	

1

開会の挨拶

東京都福祉保健局技監
矢内 真理子

皆さん、こんにちは。東京都福祉保健局技監の矢内でございます。本日はご来賓の皆さまをはじめ、ご来場の皆さまにおかれましては大変お忙しいところ、第18回東京都輸血療法研究会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和元年度献血功労者厚生労働大臣表彰状、感謝状伝達式および東京都知事感謝状贈呈式に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。本年度は献血功労者厚生労働大臣表彰状を1団体、厚生労働大臣感謝状を3団体、また、東京都知事感謝状を1団体の方々が受賞されました。受賞された皆さまには心よりお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

本日、表彰をお受けになる皆さま方には職場や学校、あるいは地域で長年にわたり献血活動にご協力をいただいております、東京都の血液事業はこうした方々の尊い善意に支えられて成り立っていることは言うまでもございません。ここに改めまして東京都を代表して受賞されました皆さまにこれまでのご功績に対し、深く敬意を表しますとともに、日頃から献血にご協力いただいている方々、関係者の皆さまのご尽力に心より感謝を申し上げます。

さて、輸血医療に欠かすことができない献血でございますが、成分献血や400mL献血を中心に昨年度、都内では延べ54万人の方々にご協力をいただき、こうした善意による貴重な血液は輸血を必要とする患者さんに滞りもなく届けられたと聞いております。これも本日は表彰を受けられる皆さまをはじめ、都民一人一人の献血へのご理解、ご協力によるものでございます。

現在、都内の献血者数、輸血用血液の供給量は共に全国の1割以上を占めているところでございます。都内には高度先進医療を担う病院が多く、また、少子高齢化社会の進展を踏まえると、将来の献血を支える若い世代のご理解と、積極的な献血のご参加が強く求められています。

そのため、東京都では厚生労働省や日本赤十字社、各関係機関の皆さまと連携し、若年層を中心に広く都民に献血への理解と協力を呼び掛けるなど、普及啓発活動に努める一方で、医療機関に対しては専門家のご協力も得ながら、血液製剤の適正使用に向けたアドバイス事業を実施するなど、様々な取り組みを行い、血液製剤の安定的な確保を図っております。

今後とも東京都の血液事業への一層のご理解を賜り、引き続き、献血の推進に積極的なご協力をお願い申し上げます。本日は表彰式に続き、輸血療法を巡って専門の先生のご講演やシンポジウムも行いますので、どうぞ最後までよろしく願いいたします。

結びに、本日は表彰を受けられる皆さまに重ねてお祝いと感謝を申し上げますとともに、ご列席の皆さまのご健勝とさらなるご活躍をお祈り申し上げまして、私からのごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

2

献血功労者厚生労働大臣表彰・感謝状伝達式 東京都知事感謝状贈呈式

厚生労働大臣表彰状受賞者(1 団体)

(敬称略)

ルネサスエレクトロニクス株式会社 武蔵事業所

厚生労働大臣感謝状受賞者(3 団体)

(敬称略)

国立市赤十字奉仕団

府中市赤十字奉仕団

カシオ計算機株式会社 八王子技術センター

東京都知事感謝状受賞者 (1 団体)

(敬称略)

学校法人東京農業大学

3

献血セミナー

献血の現状と課題

東京都赤十字血液センター
延島 俊明

皆さま、こんばんは。ただいまご紹介に預かりました東京都赤十字血液センター事業推進一部長の延島です。日頃より皆様には血液事業にご理解を賜りまして誠にありがとうございます。また、本日表彰を受けられた皆さま、おめでとうございます。


本日はこの場をお借りして、献血の現状と課題についてお話しさせていただきます。

【スライド1】

献血の現状と課題

— 東京都の献血状況と献血者確保の取り組み —

東京都輸血療法研究会
令和元年 11月 19日



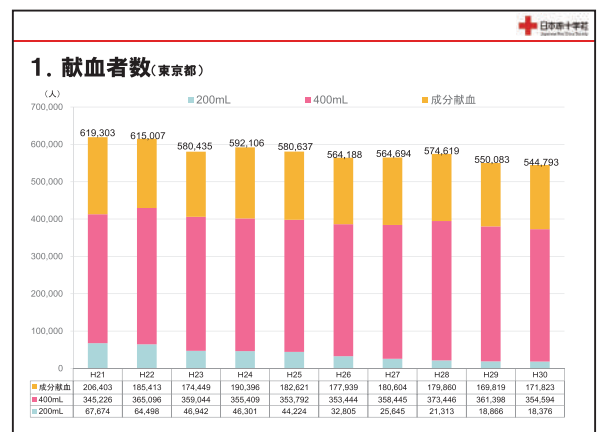
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東京都赤十字血液センター
事業推進一部 延島 俊明

【スライド2】

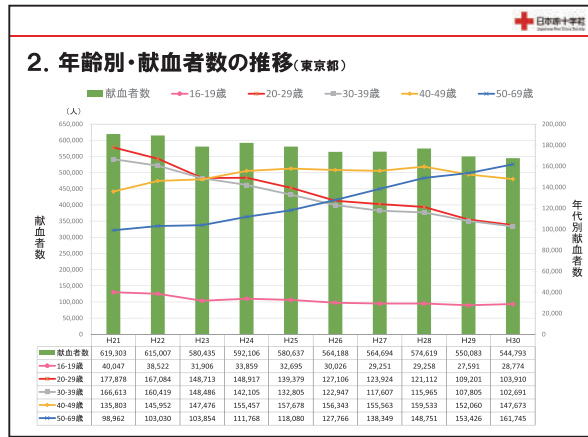
まず献血者数は、東京都内で昨年度54万4,793人にご協力いただいています。これは全国での協力者が473万6,000人ですから、全国の11.5%確保していることとなります。

また、平成21年からの推移を見ていただくと、献血者数の推移としては5年間、減少傾向となっていますが、昭和61年から導入された400mL献血などがあり、総量的には十分に確保することができます。また、血小板についても、分割血小板の推進により必要量を十分に確保することができます。



【スライド3】

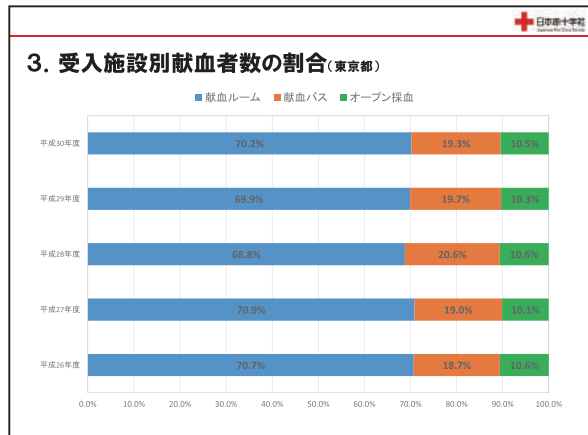
続いて、こちらは年齢別献血者数の推移です。こちらを見ていただくと、若い方が減少傾向にあることが分かるかと思えます。特に20代、30代の減少が進んでおり、10代についても緩やかな減少傾向でしたが、昨年度は何とか前年度を上回ることができました。このように若年層の減少が非常に著しいです。



ただ、50代以上を見ていただくと、50代、60代以上の皆さまには元氣にご協力いただいておりますので、今後はさらに若い方へ推進していかなければいけないと感じています。

【スライド4】

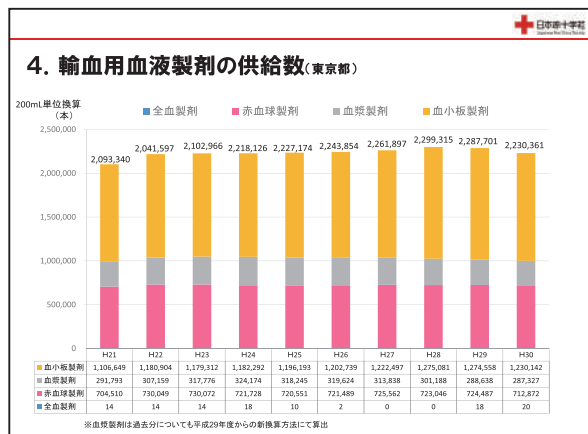
続いて、受け入れ施設別献血者数の割合です。都内では、献血ルームにおいて全血献血、成分献血を合わせると、約7割の方にご協力いただいています。残りの3割は献血のバス、オープン採血での協力となります。東京都内では非常に多い13の献血ルームを抱えていますので、今後とも皆さま方には献血ルームを利用してご協力いただけたらと思います。



【スライド5】

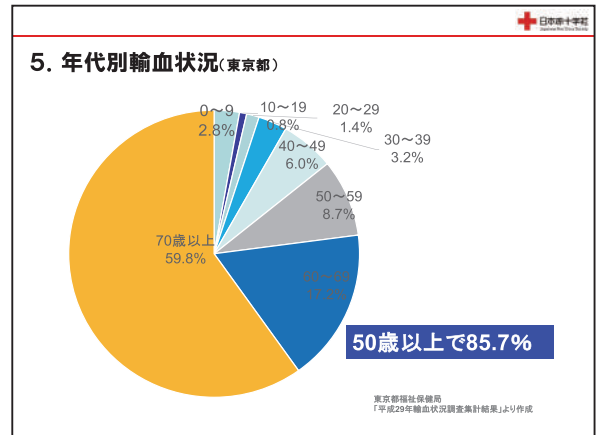
続いて、輸血用血液製剤の供給数です。供給数はここ最近では微増傾向でしたが、昨年度、血小板製剤、赤血球製剤については減少をしました。しかしながら、今年度に入り現在のところ、血小板製剤と赤血球製剤については上昇傾向となっております。

補足となりますが、平成29年度から血漿製剤の換算方法が変更になっていきますので、今回は29年度以前についても、新しい換算方法で表示しています。



【スライド6】

続いて、年代別の輸血状況です。こちらは50歳代が8.7%、60歳代は17.2%、70歳以上は59.8%の使用となっています。このように50歳以上で85.7%が使用されています。



【スライド7】

ここで今後の課題についてお話しさせていただきます。まず献血推進についてですが、一つ目が若年層献血の減少です。先ほどグラフで示させていただいたとおり、10代、20代、30代の若い方々の献血協力の増加が大きな課題となっています。

二番目は、複数回献血の増加です。複数回献血とは年間に複数回の献血をいただくこととなります。少子高齢化が進んでおり、献血していただく人口も減っていますので、今後さらに1人の方に複数回のご協力をいただくことが必要となります。続いて、献血周知度の上昇ですが、セミナーなどを通して献血の必要性などをご理解していただきながら、献血への活動に結び付けていきたいと考えています。

次に、血漿献血の推進です。先ほど私どもの所長から話がありましたが、グロブリン製剤の需要が非常に伸びており、それを作る原料である成分献血の血漿献血推進を今以上に進めていかなければ、原料血漿の確保がままならないところですので、今後、力を入れていきたいと考えています。

続いて安定供給ですが、需要予測の精度向上です。輸血用血液を無駄なく確保を行い、安定的に医療機関にお届けするためにも、需要予測が非常に大事だと考えています。また、医療機関からのオーダーに合わせた400mL献血率の向上、そして、安定的に血小板をお届けするために分割化の推進が必要不可欠となっています。ぜひ皆さま方には今後とも献血へのご協力いただけたらと思っています。

6. 今後の課題

献血推進

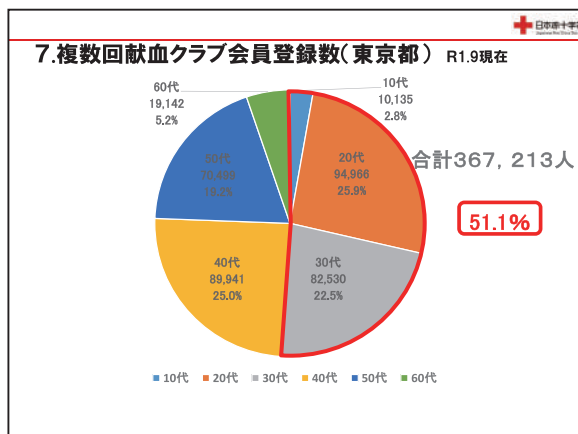
- ・若年層献血の減少(10代・20代・30代)
- ・複数回献血の増加
- ・献血周知度の上昇(セミナー等の実施)
- ・血漿献血の推進

安定供給

- ・需要予測の精度向上
- ・400mL率の向上
- ・血小板の高単位採血(分割化)

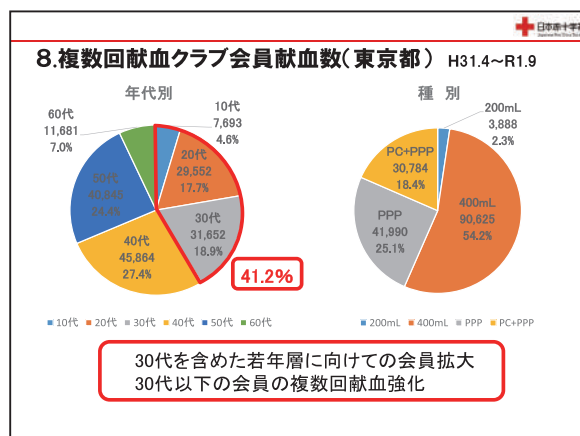
【スライド8】

今後の課題でお話ししました複数回献血について、もう少し詳しく紹介させていただきます。血液センターでは複数回献血を推進するに当たり、全国で実施している複数回献血クラブというものがあり、こちらを活用しています。都内では令和元年9月現在、36万7,213の方に登録していただいています。この中で10代、20代、30代の若い方たちは51.1%と、非常に多く登録していただいています。



では、実際の複数回献血クラブ会員の年代別の献血です。こちらを見ていただくと分かりますように、10代から20代、30代を足しても41.2%になり、先ほど登録者が51.1%とお話しさせていただきましたが、登録していただいてもなかなか協力を結び付いていないのが現状です。今後ともさらに10代、20代、30代の若い方の会員拡大ならびに複数回献血の協力、強化が必要だと考えています。また、右側のグラフは複数回クラブ会員の皆さま方の協力状況を示しています。

【スライド9】

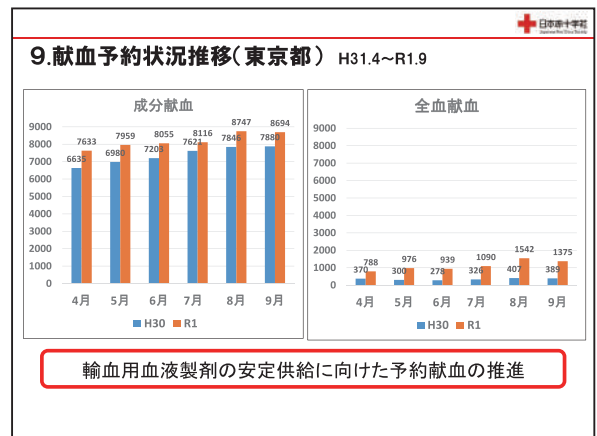


30代を含めた若年層に向けての会員拡大
30代以下の会員の複数回献血強化

【スライド10】

続いて、献血予約状況の推移のグラフになります。昨年と今年4月から9月までの予約者数ですが、左側が成分献血、右側は全血献血になります。成分献血は昨年に比べると、毎月約1,000人近く予約者が増えています。

全血献血はまだ予約を始めて日が浅いので、人数的にはそれほど多くはないですが、やはり昨年度と比べると、非常に多くの方に予約して献血に協力していただいています。今後は輸血用血液製剤の安定供給に向けてどうしても予約献血が必要となりますので、ぜひ皆さま方も予約献血にご参加いただければと思います。



【スライド11】

複数回献血クラブは、ご協力いただきやすいように、献血者の皆さま方が使われる会員サイトをリニューアルさせていただいています。

例として、これまでは献血後すぐに次を予約ができなかったのですが、今は15分後から次回の予約ができたり、お気に入りのルームを登録できたり、予約状況の分かりやすさなど、いろいろな面に変更させていただいています。今後も皆さまのニーズに合わせて変更しながら、使いやすい内容を整えていきたいと考えております。

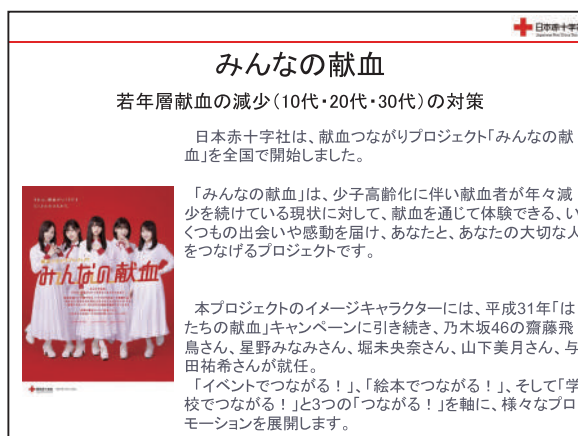


【スライド12】

昨年度まで10年間続いた全国的なキャンペーンとして「LOVE in Action」がありました。今年度からはそれに変わり、「みんなの献血」が始まっています。「みんなの献血」の目的は、少子高齢化に伴い献血者が年々減少を続けている現状に対して、献血を通じて体験できる幾つもの出会いや感動を届け、あなたと、あなたの大切な人をつなげるプロジェクトです。

本プロジェクトのイメージキャラクターには、平成31年「はたちの献血」キャンペーンに引き続き、乃木坂46の齋藤飛鳥さんを含めた5名の皆さまが就任されています。「みんなの献血」はイベントでつながる、絵本でつながる、そして、学校でつながる、この3つの「つながる」を軸にさまざまなプロモーションを展開していきます。

ぜひとも今後とも血液事業へのご理解とご協力をお願いしたいと思います。



【スライド13】

ご清聴、ありがとうございました。

